

世界各地で活動し、国内外で注目を集める映像作家 荒木悠の美術館初個展開催

荒木悠 LONELY PLANETS

会期：2023 年 12 月 9 日(土) – 2024 年 3 月 31 日(日) 十和田市現代美術館



十和田市現代美術館では、2023 年 12 月 9 日(土) – 2024 年 3 月 31 日(日)まで、映像作家・荒木悠の美術館での初個展「LONELY PLANETS」を開催します。

日本とアメリカを行き来しながら育った荒木悠は、各地の様々な言語・文化間で起こる誤訳や誤解、オリジナルと複製の関係、それらが表出させる権力構造を、ドキュメンタリー、アニメーションなどの映画や映像作品で、時にユーモラスに表現してきました。

本展のタイトルは、世界的なシェアを誇る老舗旅行ガイドブック「ロンリープラネット」の名前が、ある歌詞の聞き間違いから生まれたことに親近感を覚えた荒木によってつけられました。そこには、青森を旅するように訪ね歩き、本展に登場する人々・風景・モチーフと偶然遭遇した作家の心境が重ねられています。本展ではこれまでのリサーチを経て展開した新作の映像作品 4 点と過去作品 3 点(予定)を公開します。異なる軌道を描く惑星のように独立した作品の数々は、真冬の十和田で偶発的に接近しあい、一つの天体を展示室に生み出します。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 作品紹介 】

青森で出演者をキャスティングし撮影を敢行した新作《NEW HORIZON》

十和田近郊の住民の協力を得て撮影されたインタビューと壮大な青森の風景を交えた新作《NEW HORIZON》を、本展で初公開します。青森で「異邦人」として暮らす人々が体験したユーモラスなカルチャーギャップから、日本とアメリカの近現代史と現在に至る関係性まで展開する本作は、ローカルと普遍的な視点を両立する必見の新作となります。

オスカー像のシリーズの新作を東北のモチーフで制作

世界各地の職人に、アカデミー賞受賞者に授与されるオスカー像の複製を依頼した《Ólafur》(2014)《JB》(2022)を展示します。さらに本展のために、荒木は東北地方の多様なジャンルの職人をリサーチし、新作を 2 点制作しました。愛らしい印象ながら、オリジナル/複製という二分化の境界を軽妙に揺らがせるオスカー像と映像作品を一挙公開します。

アニメーション作品をインスタレーションとして展開する初の試み

新作のアニメーションを組み込んだインスタレーション作品を初公開します。これまで荒木は《THE LAST BALL》(2019)や《HONELYMOON》(2020)のように映像をインスタレーションで展開してきました。本展の新作でも、映像というメディアの特性や、それを形作る現象を活かした鑑賞体験を生み出します。

【 作家メッセージ 】

このたび念願叶いまして、美術館での初個展を十和田市現代美術館で開いていただけることになり、とても幸せに思っております。東北は私にとってルーツであり、特に雪がもたらす冬の静寂さと独特な光の回り方は、原風景として眼と耳に深く刻まれています。そういった記憶の中の風景は、部活帰りであれスキーをしているときであれ、常に雪景色の中にボツンと居る自分自身を確認したときのものでした。

あの頃から四半世紀が過ぎ、今日まで森を彷徨いながら、ふと振り返るとパン屑のように作品たちが在りました。それらは、道に迷わないようにと確かに自分で撒いたものなのですが、かつての森はいつの間にか宇宙空間に変わり、パン屑たちは惑星*となってそれぞれ公転を始めていました。

今回展示する作品の中には、初出から十年以上経っているものもあります。日々目まぐるしく時が過ぎ、たくさんの情報が流星群のように降ってきている現代で、地上にたどり着く前に燃え尽きてしまうような便りもあれば、衝突し、大きなクレーターを残していく悲しい報せもあります。受け止めきれないくらいの星屑を纏い、制作という名の周期をもって、正気を保っている今日この頃です。惑いながらの最新の挑戦を、ぜひ深雪とともに体験していただけますと幸いに存じます。

*惑星 (Planet) の語源はギリシア語で「彷徨う者」を意味する「プラネーテス (πλανήτης)」に由来し、またそれを「惑う星」と漢訳語を考えたのは長崎のオランダ通詞である本木良永の仕事だと云われています。和暦で寛永 4 年、西暦 1792 年のことでした。

荒木悠 (あらき・ゆう)



撮影：黒田菜月

アーティスト・映画監督。1985 年生まれ。2007 年ワシントン大学サム・フォックス視覚芸術学部美術学科彫刻専攻卒業。2010 年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修士課程修了。文化の伝播や異文化同士の出会い、またその過程で生じる誤訳や誤解の持つ可能性に強い関心を寄せている。特に、近年の映像インスタレーションでは、歴史上の出来事と空想との狭間に差異を見出し、再現・再演・再生といった表現手法で探究している。主な展覧会と映画祭に、「Memory Palace in Ruins」(台湾現代文化実験場、台北、2023)、「恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクト」(東京都写真美術館)、ホームビデオ・プロジェクト「テールズアウト」(大阪中之島美術館、2022)、第 31 回マルセイユ国際映画祭(フランス、2021)、「Connections—海を越える憧れ、日本とフランスの 150 年」(ポーラ美術館、神奈川、2020)、「LE SOUVENIR DU JAPON ニッポンノミヤゲ」(資生堂ギャラリー、東京、2019)、「The Island of the Colorblind」(アートソング・センター、ソウル、韓国、2019)、第 47 回ロッテルダム国際映画祭(オランダ、2018)など。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷 (おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 パブリック・プログラム 】**アーティスト・トーク**

日時：2023 年 12 月 9 日（土）14:00-15:00

会場：十和田市地域交流センター 大ギャラリー / 料金：無料 ※要企画展チケット / 定員：30 名

学芸員によるギャラリートーク

日時：2023 年 12 月 16 日（土）13:00-14:00 ほか

会場：十和田市現代美術館 企画展示室 / 料金：無料 ※要企画展チケット

映像作品上映会+アーティスト・トーク

日時：2024 年 3 月 16 日（土）14:00-16:00

会場：十和田市地域交流センター 大ギャラリー（予定） / 料金：無料 ※要企画展チケット

※上記の他にも、会期中にパブリック・プログラムを予定しています。詳細は後日発表します。

【 開催概要 】

展覧会名： 荒木悠 LONELY PLANETS

会 期： 2023 年 12 月 9 日(土) - 2024 年 3 月 31 日(日)

開館時間： 9:00 - 17:00（入場は閉館の 30 分前まで）

休 館 日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）

※その他の休館日、臨時開館日などの情報は web サイトにてご確認ください

会 場： 十和田市現代美術館

観 覧 料： 一般 1800 円（常設展含む） 高校生以下無料

主 催： 十和田市現代美術館

協 賛： 山口積恵

協 力： ベンキュージャパン株式会社、無人島プロダクション

後 援： 青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、エフエム青森、デーリー東北新聞社、東奥日報社、十和田市教育委員会

企 画： 中川千恵子

十和田市現代美術館

2008 年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができます。

所在地：青森県十和田市西二番町 10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com

**お問い合わせ**

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

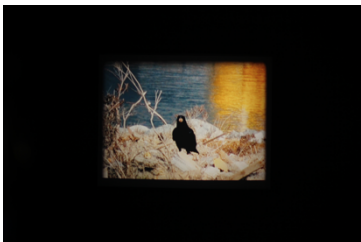
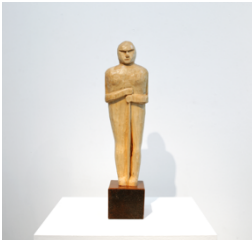
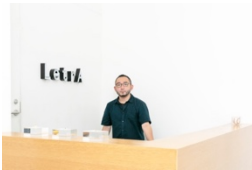
【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX : 0176-20-1138 / E-mail : press@towadaartcenter.com

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行

- [1] 
「荒木悠 LONELY PLANETS」メインビジュアル
- [2] 
《ALMOST DOWN》2012 年
16mm フィルム・インスタレーション
- [3] 
《双殻網：第二幕》2022 年
HDV インスタレーション、撮影：森田兼次
※参考作品
- [4] 
《The Last Ball》2019 年
3 チャンネル・HD ビデオ、撮影：加藤健
※参考作品
- [5] 
《ÓLI》2013 年、木彫
※参考作品
- [6] 
撮影：黒田菜月
- [7] 
十和田市現代美術館

※ 【2】～【5】の画像をご使用の際は、以下クレジットも添えていただきますようお願いします。

画像提供：無人島プロダクション

媒体名

媒体ジャンル 新聞／雑誌／美術誌／テレビ／WEB／その他 ()

御社名

御担当者名

所在地 〒

電話

メールアドレス

【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com